

2018年度 日本電子専門学校

第二回学校関係者評価委員会

中間報告会報告書

評価対象期間 自：2018年 4月 1日
至：2018年 9月30日

2018年11月

学校関係者評価委員会

目 次

| | | |
|-----|---------------------------------|----|
| I | 学校関係者評価の概要と実施状況 | 1 |
| | 1. 学校関係者評価の目的と基本方針 | 1 |
| | 2. 学校関係者評価委員名簿 | 2 |
| | 3. 学校関係者評価委員会の実施状況 | 4 |
| | 4. 2018年度中間報告の実施と評価の仕方 | 5 |
| II | 学校関係者評価報告書の見方 | 5 |
| III | 学校関係者評価委員会 評価結果報告書 | 6 |
| | 総評 | 6 |
| | 2018年度前期の取組（中間報告）に対する評価と意見 | |
| | ○前のご意見への対応 | 8 |
| | ○教育重点項目 | 10 |
| | 1. NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施 | |
| | 2. 教育力の向上 | 11 |
| | 3. 職業実践専門課程への対応 | 12 |
| | ○総合評価 | 14 |
| IV | 学校関係者評価委員会議事録 | 16 |
| | ○全体自由意見 | 19 |
| V | 付属添付資料 自己評価報告書（説明資料） | |

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

2018年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。
添付：自己点検評価（中間報告）

- ①第1回目(7月)に実施する委員会は、2017年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、2018年に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ②第2回目(11月)に実施する委員会は、2018年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

| 属性 | 氏名 | 所属 | 役職 |
|-------|--------|--|-----------------------------------|
| 企業 | 浅賀 央起 | 株式会社ぴえろ | 執行役員 人事総務部 部長 |
| | 石本 則子 | 株式会社スタジオフェイク | 代表取締役 |
| | 井沢 祐 | 株式会社スタジオフェイク | 研究開発部 ディレクター |
| | 内田 昌宏 | 株式会社ラック | 常務理事 事業企画部・営業 本部 シニアコンサルタント |
| | 川崎 紀弘 | 株式会社コンセント | |
| | 舟山 大器 | 株式会社横浜環境デザイン | 営業戦略室 室長 |
| | 乗浜 誠二 | 株式会社ナレッジコンスタント | 代表取締役 |
| | 新 和也 | オートデスク株式会社 | メディア&エンターテインメント セールスマネージャー |
| | 渡辺 登 | 合同会社ワタナベ技研 | 代表社員 |
| | 佐々木 伸彦 | ストーンビートセキュリティ株式会社 | 代表取締役 チーフセキュリティアドバイザー |
| 職能団体 | 満岡 秀一 | 一般社団法人 Open Embedded Software Foundation | 理事 |
| | 宮井 あゆみ | CG-ARTS 協会 | 事務局長 |
| | 中台 浩正 | 東京商工会議所 新宿支部 | 事務局長 |
| | 原 洋一 | 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 | 理事・事務局長 |
| | 米井 翔 | 一般社団法人組込みシステム技術協会 | 研修委員会 委員 |
| 卒業生 | 谷 伸城 | 株式会社アプリケーションプロダクト | プロジェクトリーダー |
| | 中山 秀昭 | 日本電子専門学校同窓会 | 副会長 |
| 保護者 | 藤本 香織 | | |
| | 植村 美智子 | | |
| | 清水 啓子 | | |
| | 日比野 晴美 | | |
| 高校教員等 | 四條 勇人 | 株式会社ウィザス | 教育運営部 ICT推進室 室長 |
| | 松下 秀房 | 目白研心中学校・高等学校 | 理事 校長 |
| | 勝間田 清一 | 日本大学生物資源科学部 | 非常勤講師 |

| | | | |
|-------|--------|------------------|------|
| 日本語学校 | 沼田 宏 | 株式会社インターカルト日本語学校 | 教務部長 |
| 地域住民 | 小澤 博太郎 | 百人町西町会 | 会長 |
| 在学学生 | 三浦 稚子 | Web デザイン科 | 2 年生 |
| | 伊藤 史華 | アニメーション科 | 2 年生 |
| | 戸嶋 瑠奈 | ネットワークセキュリティ科 | 2 年生 |
| | 假野 紗希子 | コンピュータグラフィックス科 | 2 年生 |
| | 大久保 匠真 | コンピュータグラフィックス研究科 | 1 年生 |
| | 菊地 聖治 | Web デザイン科 | 1 年生 |

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時 : 2018年11月19日(月) 15:00~17:00

場所 : 日本電子専門学校 7B21 (7号館地下2階)

2) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡(スケジュール、配布資料確認) 15:00~15:15

(2) 出席者紹介(評価委員、日本電子教職員)

(3) 校長挨拶

(4) 委員会開始中間報告(舟山委員長による進行) 15:15~16:20

○2018年度自己点検中間報告(学園担当者より報告)

<第1回学校関係者評価委員会にて出されたご意見への対応状況報告>

<教育重点項目に関する中間報告>

1. NEXT10(日本電子専門学校の更なる伸張)の確実な実施

1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

2) アクティブラーニングをサポートするラーニングコモンズの充実

3) 時代にニーズを捉えた魅力的な新設学科開発フレームの確立

4) エンロールメント・マネジメントによる組織的學生指導体制の充実

5) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

2. 教育力の向上

1) オリジナル教材開発

2) ポリシーに基づいたカリキュラム設定・授業設計

3) 企業連携の充実

4) 目標資格の取得率向上

5) フォローアップ・プロジェクト等の充実

3. 職業実践専門課程への対応

1) コンピュータグラフィックス研究科・高度電気工学科

・・・ 評価結果の判定(評価) ・・・

○2018年度前期トピックス報告(映像) 16:20~16:25

(5) 全体自由意見 16:25~17:00

4. 2018 年度中間報告の実施と評価の仕方

1) 自己点検中間報告の実施

日本電子専門学校は、第 2 回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、2018 年度中間（4/1～10/31）の自己点検を実施した。自己点検項目は、第一回目学校関係者評価委員会にて出されたご意見への対応状況と 2018 年度における「教育重点項目」3 項目であった。

2) 中間報告の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、項目ごとに前期の取り組みが「十分」または、「不十分」の 2 分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

| 学校関係者評価 中間報告評価記入シート 例 | | |
|-----------------------|-----|-----|
| 教育重点項目 | | |
| 重点項目1 職業実践専門課程への対応 | | |
| 前期の取組について | ⊕十分 | 不十分 |
| ご意見 | | |
| _____ | | |
| _____ | | |

II 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 25 名が記述した評価記入シートより、「十分」記入数、「不十分」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

3. 全体自由意見

評価終了後、委員全体から聴取した意見をまとめた

Ⅲ 第二回学校関係者評価委員会 評価結果報告書

総評

第二回目（11月）に実施する委員会は、「2018年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う」ことになっており、この規定に従い、日本電子専門学校2018年度前期中間報告会を2018年11月19日に実施した。

今回の委員会は、「前回委員会にて委員から出されたご意見への対応状況報告」と、3つの「教育重点項目」について、その中間報告が各担当より報告された。また、2018年度前期のトピックス（様々な競技会などの入賞実績）が映像で紹介された。

評価については、学校担当者からの報告に基づき、参加委員24名が項目ごとにその取り組みが「十分」であったか「不十分」であったかを判断し、コメントを記載した。評価結果は以下の通りであった。

<前回委員会にて委員から出されたご意見への対応状況報告>

（十分：20、不十分：3、どちらでもない：1）

<教育重点項目に関する中間報告>

1. NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施（十分：23、不十分：1）
 - 1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」
 - 2) アクティブラーニングをサポートするラーニング commons の充実
 - 3) 時代にニーズを捉えた魅力的な新設学科開発フレームの確立
 - 4) エンrollment・マネジメントによる組織的 student 指導体制の充実
 - 5) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実
2. 教育力の向上（十分：23、不十分：1）
 - 1) オリジナル教材開発
 - 2) ポリシーに基づいたカリキュラム設定・授業設計
 - 3) 企業連携の充実
 - 4) 目標資格の取得率向上
 - 5) フォローアップ・プロジェクト等の充実
3. 職業実践専門課程への対応（十分：24、不十分：0）
 - 1) コンピュータグラフィックス研究科・高度電気工学科

「前回委員会にて委員から出されたご意見への対応状況報告」については、2018年度第一回学校関係者評価委員会にて委員の方々から指摘のあった事項に関して2018年前期に学校が行った対応が報告された。その中で、コンピュータグラフィックス科学生に対して行った緊急アンケート結果が公表されたが、それに対する委員の反響が大きく、学校に対する厳しい意見も多く聞かれ、3人の委員が「不十分」と評価した。

一方で、迅速な対応や学校にとってネガティブな情報を公表し、その改善に向けて様々な対応を行っていることについては、多くの委員から称賛のコメントがあった。

「教育重点項目」に関する中間報告に関しては、24人中23人が学校の取組を「十分」と評価しているが、オリジナル教材や資格のミニマムスタンダードに関しては委員によって見解が様々であった。

総合的には、今回は、学生アンケートの結果報告に対し、厳しいご指摘も多かったが、それも委員からの意見に対し、学校側が迅速な対応を行い、その結果を委員会で正しく報告を行っているからであり、学校にとってはむしろ好ましい状況ではないかと思う。その意味では、PDCAが正しく回っているとの印象を強くした。

最後の自由意見交換でも参加者全員からコメントをいただき、様々な改善の提案や要望など大変有意義な意見が出されているので、今後の取り組みにぜひ活かしてほしい。

学校関係者評価委員会
委員長 舟山 大器

2018年度前期取組（中間報告）に対する評価と意見

2018年11月19日

参加者 24名

前のご意見への対応

| 評価結果 | 十分:20 | 不十分:3 | どちらでもない:1 |
|------|-------|-------|-----------|
|------|-------|-------|-----------|

コメント欄

- ① 全ての項目について、きめ細やかな対応ができています。中でも学生さんからの意見に双方向で対応されていることに感銘を受けました。是非、この方向性を継続していただきたいと思います。学生さんの意見からは、「真面目な日本電子専門学校 of 学生さん」という印象を強く受けました。(浅賀)
- ② CG科の授業内容に関するアンケートの結果に驚いております。学校全体でもう1度真摯に問題解決へ取り組み、再度詳細な学生ヒアリングが必要なのでは…と思います。(恐らく根本的な問題がありそうです…) ゲーム関係学科の先生方との共同解決を計って頂きたいです。(石本)
- ③ ・クレドの「見直し」とはそういうことで良いのか、少々疑問が残ります。
・ラーニングコモンズについては、意見の問題もあるのかとは思いますが、もう少しヒアリングしてみても良いのでは…(何を問題視しているか)と思いました。
・クレドの「Web ベースの自己診断」とは何なのかわかりませんでした。
(井沢)
- ④ ・授業(カリキュラム)の内容が目標資格と本当にマッチしているのか? 業界によっては適切な資格がないケースもあるので、再度検討が必要。
・従来の集合授業だけでなく、テレワーク環境でのリモート授業も準備を始める時期かもしれません。(内田)
- ⑤ 素早い対応だと思います。あと、対応方針③、④のようにただ言われた事に対応というものではないものも、よい対応だと思います。(川崎)
- ⑥ 企業から在学生のセグメント制の意見の対応は、十分と判断します。改善も具体的で実現性の高いものです。特に学生からの意見は意欲的で向学心のあるもので素晴らしい。NEXT10の方針に沿って確実に進展していると感じる。(乗浜)
- ⑦ 前回の委員から出た多様な意見が、①～⑩までまとめられ、かつ対応状況、対応方針が明確になっていると思われる。丁寧な説明で、委員の単なる認識不足による意見が中にあることなども分かった。(舟山)
- ⑧ 生徒へのアンケートは興味深い。ざっと読んでもロジカルな意見が多く、もっと日常的に生徒と対話をするべきじゃないかと思います。ちょっと色々驚きました。我々の意見なんかより生徒の生の意見が一番重要だと思います。(新)
- ⑨ 各項目の意見を真摯に受けとめ丁寧に対応をして頂いているのがよくわかりました。素晴らしいと思います。(満岡)

- ⑩ 緊急アンケートで実態把握に取り組みられたことは評価します。学生の不安・不満を迅速に取り除き、充実した学生生活を送らせていただきたい。(中台)
- ⑪ すべての意見に回答いただきありがとうございます。非常に面倒な作業をやりきった点は高く評価できるものですし、取組としては充分かと思います。(米井)
- ⑫ 学生アンケートの意見に対し学科及び学校が対処して改善することは親切。全て対応できなくても対処できる事だけでも対応する姿を見せる事が重要で良い方向と思われる。(勝間田)
- ⑬ 全体として誠実に対応されている。(松下)
- ⑭ 委員の意見を踏まえ、アクションを起こしている点は評価できる。
・アンケートは「緊急」ではなく、課題把握のため年1~2回実施してはどうか。(新生アンケートとは別に実施)(四條)
- ⑮ 意見を真摯に受けとめ、回答、対応を進められていると存じます。(谷)
- ⑯ 引き続き改善を継続願いたい。(中山)
- ⑰ 問題点に対し、真摯に取り組んでいるのは素晴らしいと思った。すぐに学生アンケートを取り、対応しているのは保護者としてもとてもありがたいです。今後も定期的の実施してほしい。(藤本)
- ⑱ 前向きな検討、対策をされているのが伝わりました。今後も引き続き改善されますよう期待しております。(清水)
- ⑲ 実際に授業を受けている生徒からアンケートをとり対応していく姿勢は素晴らしいと思うが生徒の声に届えられているかもアンケートで知りたいところです。改善されていないのであれば、なぜ改善されなかったのかまで深く掘り下げてやってほしいです。(日比野)
- ⑳ 色々な意見全てを真摯に受けとめしっかりと調査した上で改善策を出されていてとても良い学校の体制だと感じます。一部③ラーニングcommons、キャリア教育の「雰囲気作りに努める」がアバウトに感じたので、具体的な改善策がもっとあると良いのではと思いました。(三浦)
- ㉑ 全ての項目に改善、改良がみられます。commonsスペースのホワイトボードはまだ利用していないので活用できたらと思います。(伊藤)
- ㉒ 多くの対応は十分であると感じたが、資格に関しては疑問を感じた。最低限の質を保証する資格に関して在校生としては就職のために取得すると言ってもほかの授業等でもほとんど使用しないため、実感が湧かない。(大久保)
- ㉓ 前回沢山の厳しいご意見が出ました。しかし、それへの対応はちょっとしたものでまだ十分ではないかと思いました。(菊池)

教育重点項目

1.NEXT10(日本電子専門学校の変なる伸張)の確実な実施

| | | |
|------|-------|-------|
| 評価結果 | 十分:23 | 不十分:1 |
|------|-------|-------|

コメント欄

- ① ①少し解りづらい部分もありましたが、概ね良好に対策を打っているのではないかと思います。
サステナビリティ2.0については少々わかりかねる部分もありましたが。(浅賀)
- ② ②学科名をアルファベット略称で表記するのは OK ですが、我々外部の委員にはどれがどれだか解りませんので、せめて略称一覧表を添付頂きますと助かります。(石本)
- ③ ③学生自治組織名がすごくカタイな一と思いました(感想です)(井沢)
- ④ ④各論のご説明で成果のご報告がありましたが、NEXT10 が目指す姿に対して、進捗や達成レベルのご説明がほしいです。(内田)
- ⑤ ⑤NEXT10 が実行されて細目(具体的な施策)に落とし込まれると、少々「NEXT 感」が減る感じがしますね。(川崎)
- ⑥ ⑥NEXT10 に関しては、具体的な「問題」のキャッチアップをし、その「対策」も十分に行われている。特に、ドロップアウトの学生に重点を置きほかの学生も学生中心の活動を支援し、問題解決をしている点は評価できる。確実に少しずつ NEXT10 を実践している。
(乗浜)
- ⑦ ⑦NEXT10 の 5 つの柱の内容と進捗が良く分かった。課題→対策の PDCA も非常に良く回っていると思われます。中でも学生主導の試みはユニークで学生クレドなど個人的にも楽しみです。(舟山)
- ⑧ ⑧産学連携による AI 活用の詳細が知れたかったです。ドロップアウト対策のデータ解析もいいのですが、母数が少ないデータ(dropout 数)からの算出よりも「来なくなる学校作り」のポジティブアプローチのほうが良いと思いました。(満岡)
- ⑨ ⑨新設学科の設置にあたっては最低 3 年間はブレないようなカリキュラムを作成して、質の高い技能を身につけて送り出してほしい。(中台)
- ⑩ ⑩計画を順調に進めている印象です。(米井)
- ⑪ ⑪多方向の項目に対し学校として努力していると思われる。(勝間田)
- ⑫ ⑫5 つの項目とも具体的な方策があり良い結果が達成されるであろう。(松下)
- ⑬ ⑬・各種進捗を確認することができた。
・アクティブラーニングをサポートする環境の充実については設備だけではなく、アクティブラーニングを活性化させるための仕掛けが必要だと感じた。ファシリテーターの役割が重要ではないか。(四條)
- ⑭ ⑭「学生主導で社会人基礎力を養う」の施策が素晴らしいです。学業でもよい影響があると存じます。(谷)
- ⑮ ⑮「教育の質の保証・向上」が第一義でしょう。(中山)
- ⑯ ⑯十分 にはしましたがそもそも喫煙所があることが謎です。勉強しに来ているのにそんな場所必要ですか。スペースもムダ。飲食店でさえ全面禁煙に取り組んできているし、企業もビル自体が禁煙が当然の中、この取り組み自体が時間とお金の無駄ではないですか？サス

テナビリティプロジェクトの勉強をしているのであればこの先の日本に喫煙は不必要と思われませんか。(日比野)

⑰ 入学者の増員、ドロップアウトの削減のため様々な調査・対策を行っていると思いますが、どうしてドロップアウトが起こってしまうのか、本質が見えれば良いと思いました。入学生の増員は必要なことだと思いますが、今の学生の質が上がり、ドロップアウトがなくなれば、入学検討者は全体的に増えてくるのではと考えます。(三浦)

⑱ 前回よりも学生主流イベントに関する情報が多くなったように感じます。引き続きNEXT10始動について頑張ってくださいたいです。(伊藤)

⑲ 学校全体の質が向上するのは良いと思う。継続・更に良い改善をしてほしいと思う。(大久保)

⑳ 未来の技術向上に向けて新しいことに挑戦することはとても良いことだと思います。(菊池)

2.教育力の向上

| | | |
|------|-------|-------|
| 評価結果 | 十分:23 | 不十分:1 |
|------|-------|-------|

コメント欄

- ① この項目については十分な対策が取られていると思います。教育課程の委員も併任させていただいておりますが、両方向から検討を加えることによってより良い向上が図られることを期待しております。(浅賀)
- ② 施策自体に意見はありませんが、これまで特に問題の無いように見えていたCG科でこれだけ大きな問題が見つかったように、上手く行っているところをフォーカスするだけでなく、潜在化している問題を発見できる仕組み作りも大切なのではないのでしょうか？(石本)
- ③ オリジナル教材 JL の 6.3%は何かしら状況を補足していただけると安心でした。(井沢)
- ④ 各論のご説明はわかりましたが、ミニマムスタンダードの達成レベルはどうなのかの説明がほしいです。(内田)
- ⑤ 前回の参加者の意見にもみられる通り、1.同様細目に落とし込んだ時の「なんか違う感」が表れたのかもしれないね。決めた目標・施策の見直しも必要になってくるフェーズなのかもしれないね。(川崎)
- ⑥ 専門学校と大学の違いはやはり「資格取得」であり、重点的に重きを置くのは大変企業側からは大いに迎えられることであり、また成績不良者への対策実施も素晴らしいものです。早い時期の企業インターン等も社会人基礎力の上では検討の価値はあるかもしれません。(乗浜)
- ⑦ 前期に行ったことが明快、後期にウェイトが高い中良くまとまっている(舟山)
- ⑧ 企業連携は企業単位での選定よりも「人」の選定のほうが大切です。複数のメンバーをプロジェクト化して連携するほうが良い効果は出ると思います。「何をするか」よりも「誰とするか」のほうが大切かと。(満岡)
- ⑨ 企業にとっては学生(学校)に技能の質の高さを期待している。
・学生に資格取得の勉強を続けさせるために試験対策講座など支援を通じて能力向上を後押ししてほしい。(中台)

- ⑩ 目標に対しての実施率については「十分」と評価できると思います。(※教育力の向上として掲げた目標自体に疑問を感じるものはいくつかあります。)(米井)
- ⑪ オリジナル教材の開発は教員のスキルアップにも繋がり良いこと。しかし全てをオリジナルにする必要もないのではないか。(勝間田)
- ⑫ 5つの項目とも具体的な施策があり良い結果が達成されるであろう。(松下)
- ⑬ フォローアップ・プロジェクト等の充実(P20)にあるようなコンテスト、イベントへの参加は資格取得とあわせて生徒のスキル、意欲を企業にPRするいい機会である。PBL型、アクティブラーニングにもつながりやすい取り組みだと感じた。この動きが加速すれば7号館2Fの利用度も高まるのではないか。(四條)
- ⑭ 確実に向上していると存じます。(谷)
- ⑮ 資格取得率については取得率の向上だけでなく、やはり各分野の企業や団体が必要としているレベルを基本資格として設定すべき。
・学生自身の目標達成のモチベーションアップの施策も要検討。(中山)
- ⑯ カリキュラムや授業内容の充実に向け更なる改善を期待しております。(藤本)
- ⑰ 夏休みの間延び感があります。資格取得のため、学生アンケートにあったように夏休み中の実習室を使用し技術力、学力など向上できればと思います。(植村)
- ⑱ オリジナル教材が増加しており努力が見られます。資格取得率もアップしていくと良いですね。(清水)
- ⑲ 目標の資格取得は学科によってむらがある気がします。すごく忙しい学科の人たちが資格勉強までするのも大変だと思いますが…。(日比野)
- ⑳ 非常勤講師は現役のプロの方が多く、オリジナル教材などとても魅力的な授業内容になっていると思います。特に不満はないです。(三浦)
- ㉑ 先生への負担がやはり多いような気がしますので、先生が増えるのは嬉しいことだと思います。色んな意見の先生がいることで偏らない思考になると思いました。(伊藤)
- ㉒ オリジナル教材を使った授業は教師が理解を深めているため良いと思うがそれ以外の実習科目や座学に関しては教師の理解度が低かったり、問題に対しての答えがうやむやになってしまっていると感じる。教師同士での授業の質向上に向けて何か取り組んでほしいと思う。(大久保)
- ㉓ 様々なことを実行しようと考えており、しっかり実行を行えば、教育力の向上につながると思いました。(菊池)

3. 職業実践専門課程への対応

| | | |
|------|-------|-------|
| 評価結果 | 十分:24 | 不十分:0 |
|------|-------|-------|

コメント欄

- ① 既に申請済みの学科をよりよくするためのご対応も伺えると更に良いと思います。
(石本)
- ② 新しい学科をどんどん新設・検討しているのは素晴らしい。が、「核」となる学科があり、その分別的な考えはほかの専門学校に比べて貴校の特徴のように思えます。
(乗浜)

- ③ 職業実践専門課程については本校で可能な残り2学科で全学科の認可となる点は大変素晴らしいと思う。申請がうまく進むことを願っています。(舟山)
- ④ こちらの活動にも参加させて頂きありがとうございます。日本電子は全国の情報系の中でもフラッグシップ的な位置になっているかと思います。引き続き尽力させて頂ければ幸いです。(満岡)
- ⑤ 申請が順調に認可されればいいですね。(勝間田)
- ⑥ 認可されることを期待しています。(松下)
- ⑦ 着実に推進していただきたい。(中山)
- ⑧ 順調に進むことを祈ります。(日比野)
- ⑨ 特に問題はないと思います。(三浦)
- ⑩ 認可されることを願っています。(伊藤)
- ⑪ 順調に審査が進めば認可されるということで、しっかり通ってくれば良いなと思いました。(菊池)

総合評価 【学校の改善に資するご意見】

- ① 今回の評価委員会へ出席させていただき、特に学生さんの真摯な意見に感銘を受けました。非常に真面目に学業に取り組んでいると思います。常々、「日本電子の学生さんは真面目」という印象を持っていましたが、改めてその思いを強くした次第です。まだまだ磨けば光る素質を持った学生さんたちですので、学校サイドとして2年あるいは3年の教育期間のなかで、多方向から学生さんの能力・技術の向上を図るべく、多様な取り組みを実行されることを多いに期待しております。（浅賀）
- ② ・マンネリ化防止お疲れ様です。委員全員のご意見を聞くスタイルはとても良いと思います。（会議の初めに皆さんに告知したのも助かります。）
・プレゼン資料がテキスト主体で図表化されたスライドがかなり少なめなのが気になります。今後テキストだけではない図表や視覚化されたデータも取り入れてはいかがでしょうか？（石本）
- ③ 着実な進行をされている印象です。難しいかとは思いますが、もう少しだけクレバーな対応、検討の余地があると（計画のなかに）良いかなとは思いました。（井沢）
- ④ 理想とする目標に向かっての取り組みについて、きれいな言葉での説明が多かった様に思いました。現場では泥臭い地道な活動に取り組まれていると推察します。実際の施策に対してできたこと/できなかったことを含め新しい教育と全体としての達成レベルを期待します。（内田）
- ⑤ 目標のブレークダウンされた施策の見直しは必要だと思います。（川崎）
- ⑥ 毎回同じ意見ですが、きっちり学校運営をしている感を強く感じます。それはNEXT10というメソドロジーに沿って実践しているからで、素晴らしいと思う。是非、継続していただきたいと思います。益々の発展を希望します。クレド＝インターンをテスト的にありかなと思います。（乗浜）
- ⑦ しっかりとPDCAが回っていることが改めてわかりました。この調子でぜひ進捗させてください。（舟山）
- ⑧ 少し横文字の言葉が多く、理解し難いワードもあった。この辺はもう少し一般の人が理解できる言葉にしたほうが良いのではないのでしょうか？生徒へのアンケートへの実施は凄く面白いです。どんな学校なのかすぐにイメージできます。他の学科の意見も聞いてみたいです。そこにおそらく次の日本電子さんの目指すべき学校像のヒントがあるはずなので。（新）
- ⑨ NEXT10のような長期的な取り組みではKPIを計りにくいかと思います。取り組み時から各種データを収集しBefore-After、さらには取り組み中の変化を数値化することで次の10年へのSTEPになるかと感じております。（満岡）
- ⑩ 親の期待、子供（学生）の希望、企業の期待の負託を受けて、専門学校は存在していると思う。学生に寄り添いながら、能力を最大限に伸ばして欲しい。（中台）
- ⑪ 全般的に学校改善に努力していると思われる。自分も学校関係であるが、これ程細かく手厚くしていないので、日本電子の方向は良く、見習うべき所と思われる。（勝間田）
- ⑫ すべての重点項目に対して、方策が具体的で確実に前向きに取り組まれているのが強く感じられる。学生募集が順調な時こそ、出口効果が求められるので頑張ってください。（松下）
- ⑬ ・委員の意見を踏まえ、アクションに繋がられており、変化を感じることができた。

- ・様々な分野でテクノロジーの活用が進む中、社会で必要とされているクリエイティブな人材の育成、輩出をしている御校は社会貢献度の高い非常に重要な学校であると感じます。
- ・学生さんには資格取得、スキルを身に付けることはもちろんですが、問題解決意識と御校で学んだことをつなぎ合わせて考えられるような人材になって頂きたいと感じました。(四條)
- ⑭ 様々な施策が増えるにつれ仕事量が無理な状況とならぬよう、やめる施策や外注するなどを検討しても良いと存じます。(谷)
- ⑮ 学習の環境作りは積極的に推進されているが学生自身の就学意識の向上施策を研究してほしい。(中山)
- ⑯ とても素晴らしい努力をしておられると思います。先生もお忙しいので大変だとは思いますが、生徒1人1人のフォローがもう少し行き届いていればドロップアウトする人も減少するのでは…。
- 資格取得に対するフォローや対策をもう少し手厚くしてほしい。(藤本)
- ⑰ 課題の提出方法が学校内でしか提出ができないので提出期限までに登校して提出するのに結構時間がかかる。必須課題はみな大体出せていますが点数になる応用課題が間に合わない人もいる。
- 外部講師の課題の確認が遅い。(特定の曜日しか来られないので仕方がないが)外部講師以外が確認するか回答判定を自動化したらよいのではないか。(植村)
- ⑱ 前回よりの教員増員の改善、子供より報告も受けておりました。早急な対応に感謝致しております。今後も更なる向上に期待しております。(清水)
- ⑲ 改善しようとする姿勢は素晴らしく実際行動も起こしているとも思いますが、生徒達の為になっているのか生徒の声を聞いてみたいと思いました。
- この委員会に参加するたびに先生方のご苦勞と熱意は感じますが、同じところでつまづいているというか進展がない気がします。(生徒の脱落や資格取得、教員の増 etc.)(日比野)
- ⑳ 学校全体すぐに改善の体制が整っていて素晴らしいと思います。学生生活に不満は特にありません。(三浦)
- ㉑ 学校全体としての取り組みは前期の結果をしっかり踏まえて適切な改善をされている事が多いように感じた。しかし、各学科の資格や授業内容に関しては生徒からの意見や改善を求める声が多く学校側が対応しきれていないように感じた。運営側が対応するだけでなく、各学科の教師にも意見を求め、教師同士での連携も必要であると感じた。(大久保)
- ㉒ 未来の日本電子専門学校を作るということは、とても重要なことだと思いました。そのために、今のままじゃ納まらず新しい事に挑戦し続けるということが、今後の日本の技術者を増やすのにとっても良いことだと思いました。(菊池)

IV. 2018 年度第二回学校関係者評価委員会議事録

1. 日 時 2018 年 11 月 19 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 10
2. 場 所 日本電子専門学校 7 号館地下 2 階 7B22 教室
3. 参加者 学校関係者評価委員、日本電子専門学校担当者

| 属性 | 氏名 | 所属 | 役職 |
|-------|--------|---|-----------------------------------|
| 企業 | 浅賀 央起 | 株式会社ぴえろ | 執行役員 人事総務部 部長 |
| | 石本 則子 | 株式会社スタジオフェイク | 代表取締役 |
| | 井沢 祐 | 株式会社スタジオフェイク | 研究開発部 ディレクター |
| | 内田 昌宏 | 株式会社ラック | 常務理事 事業企画部・営業 本部 シニアコンサルタント |
| | 川崎 紀弘 | 株式会社コンセント | |
| | 舟山 大器 | 株式会社横浜環境デザイン | PV 事業部 営業戦 略室 室長 |
| | 乗浜 誠二 | 株式会社ナレッジコンスタント | 代表取締役 |
| | 新 和也 | オートデスク株式会社 | メディア&エンターテインメント セールスマネージャー |
| 職能団体 | 満岡 秀一 | 一般社団法人 Open Embedded Software Foundation | 理事 |
| | 中台 浩正 | 東京商工会議所 新宿支部 | 事務局長 |
| | 米井 翔 | 一般社団法人組込みシステム技術協会 | 研修委員会 委員 |
| 卒業生 | 谷 伸城 | 株式会社アプリケーションプロダクト | プロジェクトリーダー |
| | 中山 秀昭 | 日本電子専門学校同窓会 | 副会長 |
| 保護者 | 藤本 香織 | | |
| | 植村 美智子 | | |
| | 清水 啓子 | | |
| | 日比野 晴美 | | |
| 高校教員等 | 四條 勇人 | 株式会社ウィザス | 第二教育本部 教育運営部 ICT 推進室 室長 |
| | 松下 秀房 | 目白研心中学校・高等学校 | 理事 校長 |
| | 勝間田 清一 | 日本大学生物資源科学部 | 非常勤講師 |
| 在学生 | 三浦 稚子 | Web デザイン科 | 2 年生 |

| | | | |
|--|--------|------------------|-----|
| | 伊藤 史華 | アニメーション科 | 2年生 |
| | 大久保 匠真 | コンピュータグラフィックス研究科 | 1年 |
| | 菊地 聖治 | Webデザイン科 | 1年 |

| | | | |
|--------------|--------|----------|-------|
| 日本電子 専門学校 | 古賀 稔邦 | | 校長 |
| | 船山 世界 | | 副校長 |
| | 杉浦 敦司 | 教育部 | 部長 |
| | 佐々木 卓美 | 教務部 | 部長 |
| | 高橋 陽介 | キャリアセンター | センター長 |
| | 内田 満 | 総務部 | 部長 |

4. 進 行

| 時間 | 内 容 | 担当 |
|-------|---|----------------|
| 15:00 | 開会 ・ 本日の予定案内 ・ 配布資料確認 ・ 学校側参加者紹介 | 司会：内田 |
| 15:15 | 2018年度自己点検中間報告会 | 進行：舟山 (委員長) |
| | < 第1回学校関係者評価委員会ご意見への対応状況報告 > | 佐々木 |
| 15:45 | < 2018年度教育重点項目 > 1. NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施 1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」 2) アクティブラーニングをサポートするラーニングコモンズの充実 3) 時代にニーズを捉えた魅力的な新設学科開発フレームの確立 4) エンロールメント・マネジメントによる組織的學生指導体制の充実 5) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実 2. 教育力の向上 1) オリジナル教材開発 2) ポリシーに基づいたカリキュラム設定・授業設計 3) 企業連携の充実 4) 目標資格の取得率向上 5) フォローアップ・プロジェクト等の充実 3. 職業実践専門課程への対応 1) コンピュータグラフィックス研究科・高度電気工学科 | 船山 |
| 16:10 | 評価用紙記入 | |

| | | |
|-------|---------------------|-------|
| 16:20 | <前期トピックス報告> 映像上映 | 解説：内田 |
| 16:25 | 全体自由意見 | |
| 17:00 | 終了 | |

5. 全体自由意見

【(企業/アニメ) 株式会社びえろ 浅賀 様】

今日はありがとうございました。

学生さんのアンケート結果のご報告を伺って非常にまじめだなという印象を受けました。学校側としては、責任を持ってサポートしていただけたらいいなと思います。

【(企業/ゲーム) 株式会社スタジオフェイク 石本 様】

今回私からは3点あります。

1 点目ですが、学科名アルファベットの略称を使われるのは結構ですが、我々部外者にはさっぱりわかりませんのでできることならば次からは略称シートみたいなものをつけていただけたらと思います。

2 点目、CG 科のヒアリングについては、アンケートを実施されたことは素晴らしいと感じますが、内容があまりに酷い。これはしっかり見直さないとまずいレベルだと思います。特に CG においてテクスチャーをやらないというのは、ありえないことです。これは本当にまずいことだと思いますので学校として再度見直しが必要なのではないかと思います。

3 点目、プレゼンの資料がテキスト主体ばかりで図表化されたスライドがかなり少ない、今後はテキストだけでなく図表や視覚化されたデータも取り入れてはいかがでしょうか。

【(企業/ゲーム) 株式会社スタジオフェイク 井沢 様】

今日はありがとうございました。

着実にやられているという印象をもちました難しいことだろうと思いますがクレドの意見きれいにまとめられて大丈夫かなと思います。

きれいにまとめるのは時間をかければできます

【(企業/ネットワーク) 株式会社ラック 内田 様】

いつもながら真摯な取り組みには頭が下がる思いです。ただ、今日説明をお聞きして気になった点、気づいた感じたことですが、ほとんどのテーマ課題に対してこんなことやりましたっていうことが多かった気がしてそれが時間の関係もあるかもしれませんが、きれいな言葉でまとめられている感じがしました。

ただ、現場は泥臭い、実際に行ってできたこと、できなかったこと、苦労したこと、それから理想とする目標に対して達成する、体現することが大事なかなと思います。

【(企業/デザイン) 株式会社コンセント 川崎 様】

意見の吸い上げが素早い対応だと思いますが、聞けば聞くほどいろんな意見が出てしまうので、何でも聞くという感じではなく、私たちはこうだという姿勢もいいかと思っています。対応方針③や④はそういう点が良かったなと思います。

【(企業/IT・Web) 株式会社ナレッジコンスタント 乗浜 様】

毎回同じ意見ですが、きっちりした学校運営をしていると思います、特に NEXT10 というメソドロジーに沿って実践しているところは素晴らしいと思います。今後、いろんな学科を新設していくと思いますが、核となる重点的な学科があり、それに付随した学科があるという形を系列的な図式で可視化していただけるとわかりやすいかなと思います。

また、インターンや企業研修等難しいかと思いますが、賛同できる会社があればそういうところで社会人基礎力を学内にとどまらず学ぶのもありかと思います。

【(企業/CG 映像) オートデスク株式会社 新 様】

生徒のアンケートの意見が衝撃的でした。今まで 3 回ほど参加させて頂いて、日本電子さんがちゃんと取り組んでいるという内容とだいぶ乖離しているのかなと思いました。もちろんアンケートには良い意見もあるでしょうが、特に驚いたことはテクスチャーをやっていないことで、いつの時代の授業をしているのだろうかと思いました。後はもっと深いことやってほしいや授業内容が薄い等ありますが、これを書いている生徒たちは相当やる気のある生徒なのかなと思います。やる気ある生徒がこの状況だとやる気なくなってしまうのではないかなと思います、これは真摯に考えないこの先どれだけ周りを固めても実質がこれだとかなりヤバイのではないかなと思います。もしこのようなアンケートがほかの学科でもあれば見せていただくと面白いだろうと思います。

【(職能団体/IT・Web) 一般社団法人 Open Embedded Software Foundation 満岡様】

ドロップアウト対策で気になることがあります。データの解析あるあるで、ネガティブな部分を抽出してその対応策を考えることがあります。母数も少ないのでそれよりももっとポジティブな意見や方向性で考え、来なくなる学校作りにしたほうが前向きでみんな頑張れるのではないかなと思いました。

【(職能団体) 東京商工会議所新宿支部 中台 様】

企業側としての意見ですが、専門学校は子どもたちの希望、親の期待、企業の期待を託されて存在していると思います。学生に寄り添って労力を最大限に取り組んでいただき、先ほどからみなさんおっしゃっているように学生の中の不満部分はまだあるかもしれませんが、きちんと寄り添って頂けたらと思います。

【(職能団体/電子) 一般社団法人組込みシステム技術協会 米井 様】

ゲーム科のアンケートを拝見して思ったことが、オリジナル教材の割合を増やそうということがもしかしたら弊害なのかなと思いました。占める割合を増やすこともいいですがそれ自体の中身のチェック機能や著作権の問題等も 1 度クリアにしていくことが今後は必要になるだろうと思いました。

【(高校教員等) 日本大学生物資源科学部 勝間田 様】

相変わらず細かく対処しているという感想です。学生アンケートのことですが、学校

としては耳が痛いこともあるかと思いますが、それをちゃんと取り上げて対処する姿勢は良いと思います。全部を対処するのはもちろん難しいかと思いますが、改善しようとする姿勢は良いと思います。

オリジナル教材を作ることは教員自身の授業の振り返りや計画立て、スキルアップにもなるかと思いますが、ただ、世の中良いものも沢山あるので、何が何でも100%オリジナル教材である必要性はないかと思いますが。

【(高校教員等) 目白研心中学校高等学校 松下 様】

各重点項目への対応はいろいろと推進されているなと思いました。

ドロップアウトについては高等学校までの進路状況を考えると、保護者の願望によって進路選択がされている現実があります。中堅以下の大学のドロップアウトも結構高く、それに比べると日本電子のドロップアウト率は決して高くないと思います。他の学生よりも目的意識を持って学生生活をしているなという印象があります。

また学生アンケートの内容は学科によってかなり違います。これは入学前の意識の差が大きい学科・そうでない(バラつきのない)学科があり、それに全部答えるのは不可能なので、ラーニングコモンズを活用するなどして1人1人の主体性と内発力を身に付けるべきではないかと思いますが。

特に大都市圏の学校は自由な時間にアルバイトに精を出す学生も多いですから、その兼ね合いもある中で、良い方向に向かっているのではと感じられる中間報告でした。

【(高校教員等) 株式会社ウィザス 四條 様】

本日で2回目の参加になりますが、前回の内容を踏まえてその進捗を報告いただき確認することができました。アクティブラーニングの取り組みを加速しようというお話がありましたが、なかなか環境の充実だけでは難しい部分があるのではないかと感じました。アクティブラーニング活性化のための仕掛けが必要なのではないでしょうか。ファシリテーターとしての役割が必要になってくるのではないのでしょうか。私たちも学校を運営している中でアクティブラーニングをどうやって取り組めるのかということ日々試行錯誤繰り返しながら進めています。高校段階で生徒主体的に課題を見つけてそれをどう解決できるか、それに向き合って取り組み、みんなと考えて答えを出せる生徒を輩出する、そしてそういった生徒が日本電子に入るような取り組みをさせていたきたいなと思いました。

【(卒業生) 株式会社アプリケーションプロダクト 谷 様】

いろいろな施策が出されて素晴らしいなと思います。私は開発系のプロジェクトマネージャーをやっていますが、やるが増える時は何かをやめなければできないと思います。日本電子専門学校さんも何か施策を増やすのであれば、減らすなり外注する等しなければ仕事の量が無理な状況になってしまうのではないかと思います。昨今働き方改革とかもありますので、そういうところも考えてもらいたいと思います。

【(卒業生) 1974年 情報処理科 卒業 中山 様】

私が通っていた時代とだいぶ違いますので、率直に今の学校運営や学生のことを想像しながら話を聞いていました。

教材の話ですが、今世の中の新しい技術の進展は非常に目を見張るものがあり、オリジナルの教材を作ることによってその時代に合った教材のメンテナンスに膨大な時間がとられてしまうと思います。あくまでも、基本的なところや普遍的なところはオリジナルで結構ですが、世の中で発表されている内容や情報処理学会の論文などをピックアップするなどしたほうが教員の負担軽減にもなるかと感じました。

学生アンケートに実習環境をもっとオープンにしてほしいとあり、CG分野においてはノートPC環境では厳しい、空き時間に実習室を使えるようにしてほしいとありました。私の時代は大型の汎用コンピューターしかない時代で、その頃は非常に機械をオープンに提供していただいております。今は学科別のため、実習室を固定するのが難しいのであればデスクトップを使っている高機能な実習室を時間外に自由に使える様にするなど、全部の学科に設備を整えるのには膨大な費用が掛かりますので、既存のものをうまくバランスよく使うことも必要なのではないかと感じました。

最後に教育の質の保証ですが、(A) 資格 (B) 資格の区別がありましたが、無試験で卒業と同時に受けられる試験を基準に考えることはもう少し検討の余地があるのではないかと思います。実際に就職した後は企業や団体が求めている水準を良く分析しないと、良い企業に就職できても企業の要求する水準に実力が伴っていないなど学生のドロップアウトと同じように、就職してすぐに自分の目標が達成できないというような状況もあるので、そういうことも考えた必要最低限の水準も検討頂けたらと感じました。

【(保護者) 藤本 様】

毎回、出てくる問題に対して真摯に取り組んでいる姿は素晴らしいと思います。保護者の立場としては、今回の学生アンケートをきっかけに授業内容・カリキュラム等を見直していただいて、子どもたちが将来役に立つ授業を期待しております。

【(保護者) 植村 様】

子どもが高度情報処理科ですが、親としては作品を作るのに追われているのが見えないので何をしているのかはわかりませんが、間延びしているような過ごし方をしていたりして、本人も必須課題に関しては間延びするかなという感じで言っていました。学校の対応として、学校に来るのを無駄と感じさせないような努力をするとありましたので、そのように対応してくださるといことがよくわかりました。

【(保護者) 清水 様】

前回私から指摘させていただきました教員の件ですが、早急に対応していただきありがとうございます。子どもからも先生が増えたという話は聞いておりまして、すぐ対応していただければ素晴らしいと感じました。

学生アンケートの件ですが、娘からも聞いている内容がいくつかあり、こちらに関しても今後必ず対応して頂けると嬉しいです。日本電子でよかったと子どもたちが思え

る授業にして頂けるとありがたいです。

【(保護者) 日比野 様】

この委員会に参加するたびに先生方のご苦勞とか熱意は感じ改善しようとする姿勢は素晴らしいと思います。実際に行動も起こしていると思います。今回の学生からのアンケートを行ってみてどれだけ生徒たちの意見が反映されたかどうか生徒の声を聞いてみたいと思いました。

【(在学生) Web デザイン科 三浦 様】

授業や就活では特に不満はなく改善されているなど感じています。ドロップアウトについてですが、私自身 WEB デザイン科の広報スタッフをやっており、その中で入学検討者と触れ合う機会があります。その際なんとなく参加した、親御さんに進められて参加したなど結構中途半端な気持ちで参加したという人は多く、そのまま願書を出してもらおうような形にならないように、こちらからこの学校の魅力を伝えるだけでなく、本人の将来やりたいことは何なのか、この学校に入って幸せなのかを見極めてあげるような体制が学科全体でオープンキャンパスの時点からできると、より一層学生の質が高くなる学校になるのではないかと思います。

【(在学生) アニメーション科 伊藤 様】

緊急アンケートをほかの科にもやってみてはどうでしょうか。もしかしたらいろんな意見があるかもしれないので、それでまた改善していただけるならとても良いことだと思います。年が経つごとに新しいことは増えていくと思いますので、柔軟に対応していただくと生徒に良いと思いますし、就職して応用できるというのは生徒の自信にもつながるのではないのでしょうか。

【(在学生) コンピュータグラフィックス研究科 大久保 様】

在校生の立場として、ほかの学科はわかりませんが、実習の授業に関する問題も今回取り上げられて、改善を感じましたが、私の学科は座学の授業の質も低いように感じています。資格取得に直結する授業ですので私としては座学の授業の質を向上してほしいと思いました。

【(在学生) Web デザイン科 菊池 様】

私からは資格取得に関して意見があります。私の学科は6月に色彩検定がありましたが、例年よりも取得率が低かったです。その理由は周りの声を聞いてみると、この資格を取っても将来関係ないという考えの生徒が多く、1人1人のやる気・向上心が低かったことです。1人1人の資格取得に関するやる気や向上心をしっかり上げてもらいたいと思いました。

【(議長) 株式会社横浜環境デザイン 舟山 様】

アンケートの件などかなり厳しい意見かと思いますが、書き手・受け手の誤解から生

じる「実はそうではなかった部分」もありますので我々も冷静に見ていかないといけないなと感じました。

それに加えて未来に向かって考える事も必要であり、現状において企業のSDGsを一体何社がわかっているのかというレベルの世界だと思います。国際的には未来に向かってやらなければならないとなっていますが、企業もまだそこに追いついていない中で走りながら考えていくことは大切であるが、今やっている中で止まって考えることもクローズアップされてきており、両面でより良い学校を作って頂ければ幸いです。

V. 付属添付資料

第二回学校関係者評価委員会中間報告説明資料